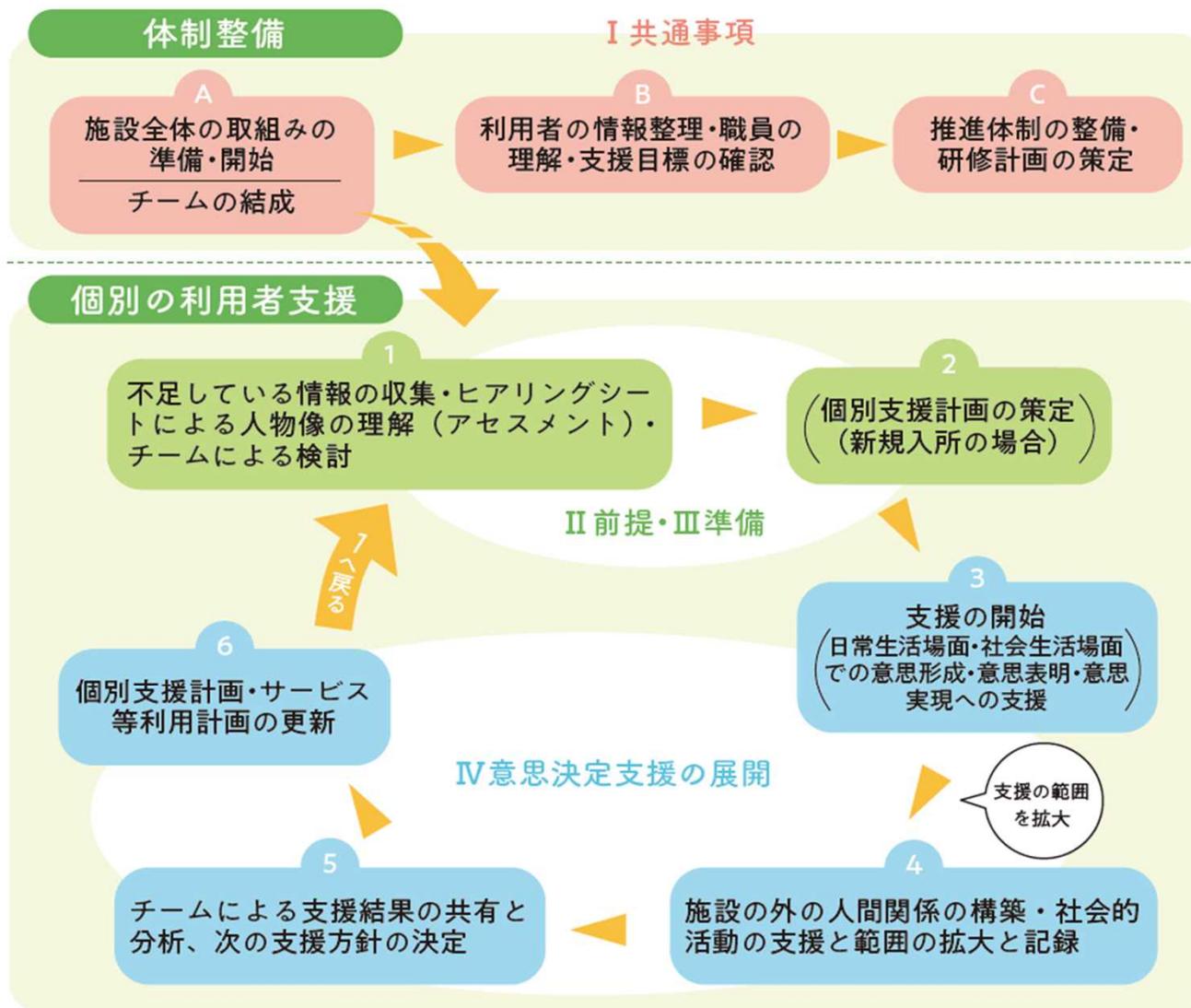


利用者参加による会議開催の実践

社会福祉法人星谷会 河原 雄 一

県版ガイドラインにおける意思決定支援のフローチャート例



3 県版ガイドラインの全体構成

I 共通事項

施設及び支援チーム

- 1-1 相談支援専門員などとの連携と支援チーム
- 1-2 支援チームの活性化
- 1-3 組織的な情報の積み重ねと意思の確認方法の模索
- 1-4 第三者による客観性の担保
- 1-5 支援者の支援

推進体制と知識・技術

- 1-6 意思決定支援の推進体制と環境整備
- 1-7 情報や知識の収集と技術の習得

II 前提

インタビュー

- 2-1 新規受入れの場合

III 準備

アセスメント
プランニング

- 3-1 ヒアリングシートを活用した人物像の理解
- 3-2 個別支援計画作成の基本的な留意点
- 3-3 個別支援計画作成に盛り込むべき事項

IV 意思決定支援の展開

1 意思形成

- 4-1 利用者の感情（意思）に気付くための工夫
- 4-2 分かりやすいコミュニケーション方法の検討
- 4-3 社会的体験を通じた興味関心の幅の拡大とその記録
- 4-4 組織的な情報共有
- 4-5 支援チームでの情報共有とスーパービジョン

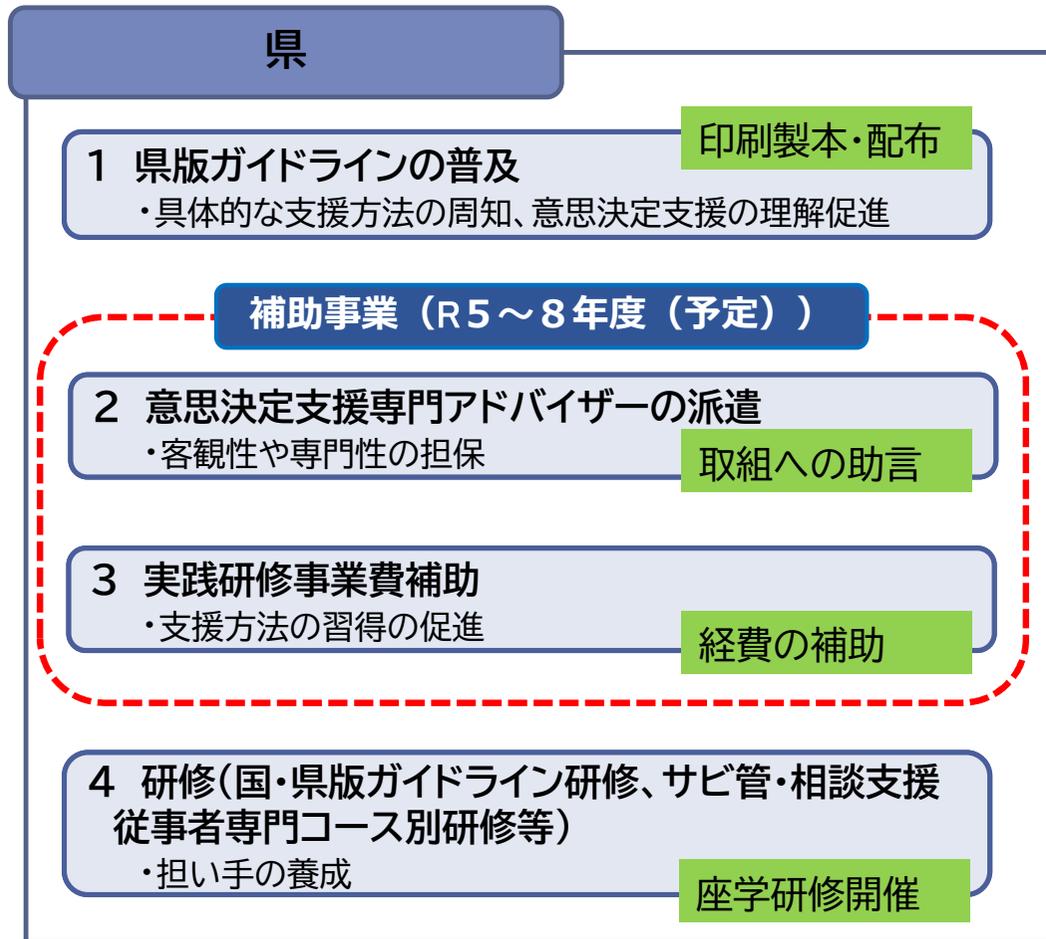
2 意思表明

- 4-6 利用者の意思表示を受け止める支援者としての態度
- 4-7 利用者が安心して意思表示できる環境への配慮
- 4-8 利用者の感情表現への気付き
- 4-9 意思表示の方法などの確認

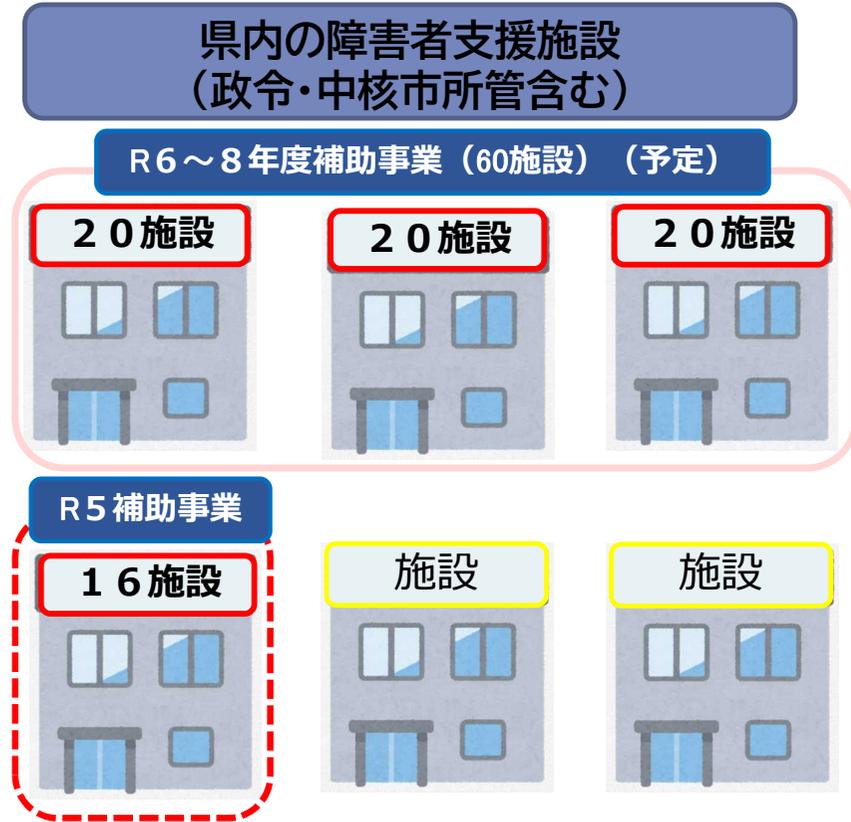
3 意思実現

- 4-10 人間関係と社会的活動の範囲の拡大
- 4-11 興味関心の幅を広げるための支援の実施
- 4-12 新たな挑戦への配慮とフィードバック

県の意思決定支援の取組み



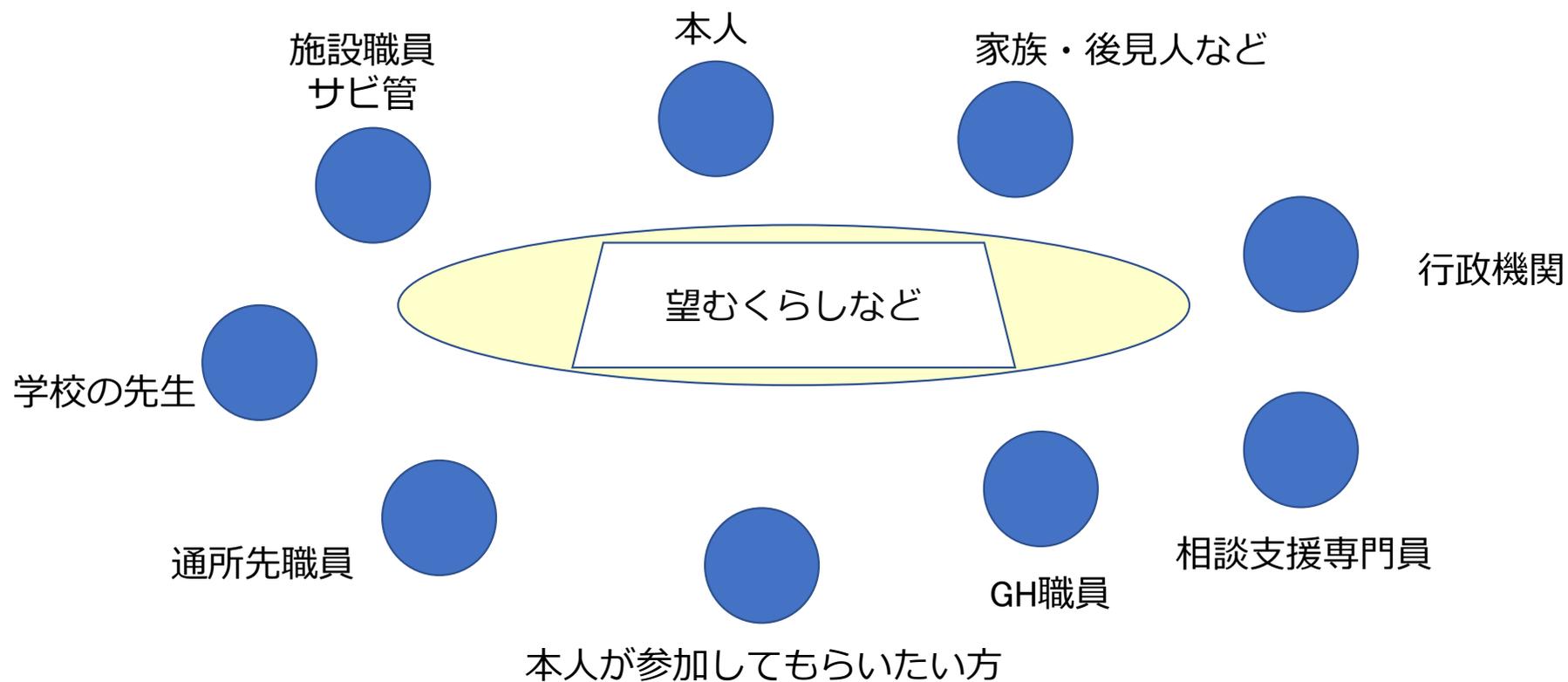
施設の取組を後押し



意思決定支援の実施 (県内88施設)

意思決定支援の全県展開の起点

皆様が参加されるイメージ



○意思決定支援実践研修事業費補助に係る振り返り

(組織体制)

段階	取り組んだこと	課題
事前打合せ	意思決定支援ガイドラインを配布すると共に事業の意味などを説明した。	年間スケジュールの組み立てなどに戸惑ったが、定型書式があり参考になった。(
内部研修	① 意思決定支援ガイドラインと意思決定支援の基本的な考え方の読み合わせを行った ② 担当者に実践報告をしていただき理解を深めた	担当者のスキルは上がっているが全体まで波及しているかは疑問。
会議（施設内打合せ）	フロア会議や全体会議を通して事業の進捗状況等を共有した	サビ管、担当者との打ち合わせはしっかりと行えたと思うが、変則勤務のため担当職員同士のすり合わせには制約があり課題であった
アセスメント（ヒアリングシート活用等）	担当者が中心となり記録等しっかりと行うことが出来ていた。意思の表現方法などは施設全体で共有した。	担当ごとに情報量の差が出てしまった。カテゴリズがしっかりと出来ておらず活用時に支障が出た。
意思決定支援の展開（社会体験支援含む）	外出支援を含め積極的に行うことが出来た。	事業対象者は充実していたと思われるがその他利用者まで同じ外出機会が確保できるか心配になった。
実践報告会（振り返り）	担当職員に進捗状況の報告をしていただくと共に感想の共有を図った。	実践部分の資料作成を担当職員に依頼したが、負担感が強いとの報告を受けた
相談支援、市町村との関り	相談支援事業所は法人内事業所ということもあり積極的に連携を図ることが出来た。	CWについては担当者ごとに温度差があった。 法人外相談支援事業所との連携は今後の課題
県版ガイドラインの活用状況	ヒヤリングシートなどの活用にと比べると限定的になってしまった。	サビ管の理解度が低く全体周知が限定的になってしまった。簡易版はチェックもしやすく有効活用できた。

○意思決定支援実践研修事業費補助に係る振り返り

(個別支援)

段階	取り組んだこと	課題
① 事前打合せ	意思決定支援実施研修事業費補助を活用した実践研修へ参加。	
① 内部研修	全体会議にて、進捗状況と途中経過、今後の方針について報告。	
① 会議（チーム会議）	10/30, 1/24にチーム会議実施。(Sさん) 8/22, 11/7, 2/9実施(Mさん)	参加メンバーの選定。
① アセスメント（ヒアリングシート活用等）	本人・家族からの聞き取りを行う。日々の記録から本人特性や課題・嗜好等を取りまとめる。	情報の収集の難しさ。 情報整理の難しさ。 ヒアリングシートのカテゴリズ。
① 意思決定支援の展開（社会体験支援含む）	収集した情報、聞き取りを行い得た情報から個別外出、買い物を行う。	展開にあたっての支援員の配置。 福祉サービス資源の数。

○事業を通じて気づいた利用者や職員の変化

【利用者】

- ・ 年度末になると毎年気にされている次年度の担当をあまり気にされなくなった。
- ・ 意思の表出とその実現を体感し、今後の生活の楽しみを持たれるようになった。
- ・ 外出予定を聞いてくれる機会が増えた。意思表出をすれば実現できるといった体験ができたからではないか。
- ・ 家族からの聞き取りなどから過去の様子を参考に新たな趣味の拡大が図れた。

【職員】

- ・ 施設日誌への記録の仕方が変わり始めた。
- ・ ニーズを把握する為の努力が見られる。
- ・ 日々の記録の重要性を再認識し、支援間での共有意識が高まった。
- ・ 相談しやすい環境や雰囲気について考えるようになった

○令和6年度の取組方針（フォローアップ含む）について（自由意見）

- ・ 対象については、現ケースを掘り下げる検討している
- ・ 社会資源の活用や有料サービスをどう活用すべきか検討する必要あり
- ・ 従来のアセスメントシートとヒヤリングシートの統合を図ることで業務の効率化を図りたい

関係機関連携による支援実践

海老名市障害者基幹相談支援センター未来
センター長補佐 河原 雄一

(利用者に関する相談) ケース概要・Kさん・女性・年齢57歳 知的障害・住居：SGH・日中活動：N事業所
(就労継続支援B・週5日・相談支援事業所：T相談支援事業所
(相談内容)

・今年8月にN事業所の職員ミッキーマウスの柄の傘が紛失する。3年前にも同様の紛失事故があり、Kさんが盗っていった。GHに傘があるか確認をお願いしたが、特になく、今回は盗ったかの事実は確認できなかったが、自分の名前の書いた傘を使うように指導する。

・その後GHでも傘の紛失がある。N事業所で傘の紛失があったことを知っていたので、GHの職員が本人に許可なく部屋を探したところ紛失した傘が見つかる。

・盗った事実が確認できたため、GHの職員は本人に厳しく叱責したらしい。本人、その後不安定になる。

・N事業所では、本人を犯人扱いにせずソフトな対応をしていたが、GHでは真逆な対応をしていた。支援の方向性について両者で確認することは可能か。

(今後の対応について)

・相談支援事業所が入っているが、サービス担当者会議が開かれていないらしい。安定した通所を行う点では、GHでの安定した生活を送ることが重要である。

・基幹の関わりとしては、サービス等利用計画の内容の確認と通所事業所とGHの個別支援計画等の突合せ等サービス担当者会議を招集し、今後の方向性の確認・共有等の確認。相談支援専門員等にサービス調整を任せる予定。

(経過)

・9月〇日の基幹内部会議で相談内容を確認する。今後の方向性について順次進める。N事業所とT相談事業所に状況を説明し、担当者会議を開くように基幹が調整する。N事業所サビ児管に、上記に対応を報告する。

・10月〇：担当者会議を開催。個別支援計画の確認。支援の方向性について協議・確認する。

(職員に関する相談)

・上記のようなケース対応についてサビ管や現場の職員は日々悩んでいるが、どこにどのように相談してよいかわからない様子。現場の職員やサビ管の困りごとの共有や、スキルアップのための研修など場があると良い。

地域における関係機関連携について

海老名市自立支援協議会
会長 河原 雄 一

(別表1)

海老名市自立支援協議会 組織図

令和6年5月21日現在

海老名市

(事務局)
 地域活動支援センター結夢
 海老名市障がい者基幹相談支援センター
 (海老名市障がい者サポートセンター)

チーム「育つ・学ぶ」

自立支援協議会

「ずっと海老名で暮らしたいプロジェクト」

相談支援事業所連絡会

地域生活支援拠点事業所連

差別解消支援地域協議会

チーム「らいふ」

チーム「働く」

チーム「広げる」

チーム「まもる・つながる」

障がい児通所支援事業所連絡会

就労支援事業所連絡会

- ・海老名市自閉症児・者親の会
- ・海老名おやじの会
- ・grand-mere
- ・(放課後等デイ事業所代表)
- ・(児童発達支援事業所代表)
- ・(日中一時支援事業所代表)
- ・海老名市学童保育連絡協議会
- ・ティーズ相談事業所
- ・海老名市障がい者基幹相談支援センター
- ・神奈川県厚木保健福祉事務所
- ・神奈川県厚木児童相談所
- ・発達障害支援センターかながわA
- ・神奈川県立えびな支援学校
- ・海老名市子育て相談課
- ・海老名市こども育成課
- ・海老名市保育・幼稚園課
- ・海老名市教育委員会教育支援課
- ・海老名市障がい福祉課

(事務局)

- ・海老名市立わかば学園
- ・相談支援事業所結夢+

- ・海老名市障がい者団体連合会
- ・海老名市身体障害者伸生会
- ・海老名市手をつなぐ育成会
- ・海老名肢体不自由児者と父母の会
- ・海老名市自閉症児・者親の会
- ・海老名市精神保健福祉推進会 2πr
- ・生活再建者の集い「たなからぼたもち」
- ・海老名市医師会
- ・海老名市民生委員児童委員協議会
- ・海老名市立わかば会館
- ・社会福祉法人 星谷会
- ・海老名市障害者支援センターあきば
- ・障害者就業・生活支援センターぼむ
- ・県央障害保健福祉圏域ナビゲーションセンター
- ・愛なやまゆり園
- ・クロスオーバー大和
- ・grand-mere

- ・海老名市立わかば学園
- ・相談支援事業所びーな'S
- ・神奈川県厚木保健福祉事務所
- ・神奈川県厚木児童相談所
- ・神奈川県立えびな支援学校
- ・厚木公共職業安定所(ハローワーク厚木)
- ・海老名市社会福祉協議会
- ・海老名市健康推進課
- ・海老名市子育て相談課
- ・海老名市地域包括ケア推進課
- ・海老名市こども育成課
- ・海老名市保育・幼稚園課
- ・海老名市教育委員会教育支援センター
- ・海老名市商工課
- ・海老名市職員課
- ・海老名市障がい福祉課
- ・5チーム代表 事業所

(事務局)

- ・海老名市障がい者基幹相談支援センター(海老名市障がい者サポートセンター)
- ・地域活動支援センター結夢

- ・手をつなぐ育成会
- ・海老名市身体障害者伸生会
- ・海老名市肢体不自由児者と父母の会
- ・海老名市精神保健福祉促進会 2πr
- ・生活再建者の集い「たなからぼたもち」
- ・海老名市民生委員児童委員協議会
- ・えびなバシコンサポートボランティア
- ・海老名市立わかばケアセンター
- ・社会福祉法人 星谷会グループホーム
- ・神奈川県厚木保健福祉事務所
- ・海老名市障がい者基幹相談支援センター
- ・海老名市福祉政策課
- ・海老名市障がい福祉課

(事務局)

- ・地域活動支援センター結夢

- ・海老名市肢体不自由児者と父母の会
- ・海老名市自閉症児・者親の会
- ・発達障がい児者家族会そのまんま
- ・(就労支援事業所連絡会 代表)
- ・(就労支援事業所連絡会 副代表)
- ・(就労支援事業所連絡会 副代表)
- ・ユニバーサル就労支援事務局
- ・障害者就業・生活支援センターぼむ
- ・県央地域若者サポートステーション(事務局)
- ・海老名市障がい者サポートセンター
- ・相談支援事業所結夢+

- ・厚木公共職業安定所(ハローワーク厚木)
- ・神奈川県立座間支援学校有馬分教室
- ・神奈川県立えびな支援学校
- ・海老名商工会議所
- ・海老名市職員課
- ・海老名市商工課
- ・海老名市障がい福祉課

- ・grand-mere
- ・りんくの風
- ・ティーズ相談事業所
- ・エアリアル
- ・Dキャリア海老名オフィス
- ・海老名市障がい福祉課(事務局)
- ・相談支援事業所びーな'S



- ・海老名市身体障害者伸生会
- ・海老名市手をつなぐ育成会
- ・海老名市自閉症児・者親の会
- ・生活再建者の集い「たなからぼたもち」
- ・えびなケアマネ連絡会
- ・神奈川県厚木児童相談所
- ・海老名市北地域包括支援センター
- ・海老名市障がい者基幹相談支援センター
- ・海老名市市民相談課
- ・海老名市福祉政策課
- ・海老名市子育て相談課
- ・海老名市障がい福祉課
- ・(事務局)
- ・海老名市社会福祉協議会
- ・相談支援事業所結夢+

2023年度海老名市障害者自立支援協議会全体進行

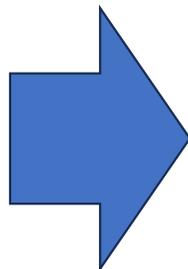
23年度の進行（案）			
	5月	10月	2月
ケースについて	ケース報告（課題性のある2ケース）	・ 中間報告（2ケース） ・ 児童をテーマに扱う会	→ まとめ
	相談事業所連絡会で検討		
		児童ケース（報告から提議まで）	→ まとめ
共通テーマ		地域診断「海老名市のストレングス」「こんな街にしたい」は24年度検討	

- ・ 23年度の進行について次回事務局会議で提案する。（年間アナウンスに助走的な物を入れておく。）
- ・ 10月は児童をテーマに扱った会としてケース報告・提議を行う。
- ・ 地域診断の1つとして「海老名市のストレングス」「こんな街にしたい」を5～6人のグループワークを検討したいが23年度盛り込むには会議時間が長くなってしまったため、24年度になる見通し。

事例報告から見る海老名市の障がい福祉サービスの課題2024.2.2 海老名市自立支援協議会資料

1.事例報告から見た課題の抽出の検討結果

- ① 高次脳機能障がいのケース
 - ・生活の場の確保が困難である。
 - ・家族に対する支援がない。
 - ②通院時のサポートが必要なケース
 - ・ヘルパーが足りない。
 - ・通院の移動支援がない。
 - ③児童と養育者が二人で一緒に少しでも長く暮らしていくためのサポート
 - ・緊急時の一時保護や短期入所先がない。(家族の体調不良等によるもの)
 - ・移動に係る支援がない。
 - ・年代に合わせた支援が出来ていない。(ライフステージに応じた支援が必要)
 - ④思春期を迎えた本人と家族支援
 - ・周囲の障がいへの理解が深まらない。
 - ・緊急時に対応できる場がない。(本人を落ち着かせられるため)
 - ・多国籍に利用者が増えており、コミュニケーションに課題がある。
- 以上の項目に整理。



2.来年度の検討課題の設定と検討の進め方について

①8項目の中から来年度の自立支援協議会での主な検討課題として

- ・移動手段の確保
- ・児童の緊急時の対応場所の確保を提案していくこととしました。

②検討の進め方

- ・全体会でのGW等での検討
- ・各チームでの検討（横断的な検討も含む）

○2024年度は各チーム共通検討課題として移動手段の確保を検討し提案を出す。

○児童の緊急時の対応場所の確保は、「チーム育つ・学ぶ」で集中的に検討し提言を出す。

・この他、2025年の検討テーマとして「人材の確保・養成等」を検討する予定。